平成１６年　２月１０日発行

北海道国際理解教育研究協議会　会報 第５７号

会長　眞木　孝輝　　事務局長　池田　幸一

「派遣教員研修会・帰国報告会の熱気に感動」

北海道国際理解教育研究協議会
会　長　　眞　木　　孝　輝
（札幌市立もみじ台西小学校長）

お正月早々にもかかわらず開催された「派遣教員研修会・帰国教員報告会」は７０名を越える参加者の暑い熱気の中で研修が深められたことは，会員だけでなく，広く北海道の教員にこの会の存在意義を理解していただけた結果と感謝申しあげたい。

まず全体会での元札幌地区会長の佐野和人先生による，海外日本人学校に派遣される教師の心構えに関する講話。やわらかな口調の中にも，くれぐれも気を緩めることなく全力で務めて欲しいことが強く感じ取られる内容であった。これは近年，派遣者の中に，勤務の様子や生活態度に疑問を感じざるを得ない教師が少数存在することが事実であり，そのために，海外派遣の期間が原則３年間から２年間に縮小された事実からの警鐘であるとありがたく謙虚に受け止めた所であった。

また各地域ごとに分かれて開催された帰国報告部会は，いずれの部会も密度の濃い報告ばかりだと司会や運営・助言にあたられた会員からお聞きし，さすが海外日本人学校でも評判のよい北海道から選ばれた教員だけあるなあと嬉しさを感じたところでした。これなら北海道からの派遣教員は最初から全て３年以上の派遣にして頂かなくてはと思ってしまった程であった。

また、続いて開催された派遣地域別の研修会ではいずれも，こんな授業を行いたいのだが教材はあらかじめ準備すべきなのか，それとも現地で購入できるのか？」「パソコンは？学校の様子は？・・」と鋭い質問が矢継ぎ早のように出され，派遣予定の教員の熱意の程が直に伝わるものばかりであり，閉会時刻を過ぎても熱心な研修がされたと問いている。このことも本会員の熱意の表れと感謝申しあげたい。

その後会場を変えての派遣教員激励会でも報告会や研修会で解決されなかった話や質問が続出し，有意義な会になったことは言うまでもないことであった。

本会としては，派遣される教師が力いっぱい活躍できるよう，また同伴される家族が安心して生活出来るよう出来る限りの情報交流や支援をおこなって行きたいと考えている。

海外日本人学校派遣の教員の活躍が，後に続く海外派遣を希望する北海道の後輩の夢を（派遣人数や期間おいて）大きく膨らませることになることを，派遣される教員は肝に銘じてほしいと思う（勿論杞憂に過ぎないことだと思うが）。そして，後日元気に帰国され，その派遣先での奮闘の様子と素晴らしい成果を本会の帰国報告会や研修会でお聞かせくださることを願っている。

いずれにしても日本人学校での活動そのものが素晴らしい国際理解教育の実践であるので，私達会員はその成果を携えての帰国（２年後なのか３・４年後なのかは分らないが）を今から心待ちにしたい。

平成１５年度

帰国報告会 及び派遣教員研修会 開催される

１月９日（金）、ホテル札幌会館において、１５年３月に帰国した先生方の帰国報告会と、１６年４月に派遣予定の先生方の研修会が行われた。この研修会は、北海道国際理解教育研究協議会が主催して毎年実施している。開会式では、後援を頂いている北海道教育委員会より来賓としてご出席下さった小中・特殊教育課小中学校指導班主査の佐野博之氏よりご挨拶を頂いた。開会式に引き続いて行われた全体研修会では、元札幌国際理解教育研究会会長の佐野和人氏の講演があった。佐野氏は、ご自分の２度の在外教育施設派遣の経験から派遣教員としての心構えや帰国後その経験をどう生かすかなどについて貴重なお話をして下さった。

佐野氏の講演から

「学校は、組織されたプロ集団である」
「全力で仕事をし、何事にも興味を持って挑戦してほしい」

佐野氏は、平成元年から３年間ロンドン日本人学校に教諭として、そして平成１１年から３年間ワシントン補習授業校に校長先生として勤務された経験から、次のようなことを念頭に置いて旅立ってほしいと、４月から派遣予定の先生方に心構えを述べた。

まず、希望していない地域に派遣されることもあるが、それは当然のことで、むしろ初心にかえって「自分の力」を伸ばす良い機会ととらえて一生懸命勉強して、活躍してほしい、そして日本の教育の現状についてこれで良いのかという観点で是非考えてほしいと話をはじめ、次の７つの点について経験をもとに具体的な話があった。

◇派遣先の国は、私たちを受け入れてくれているから私たちは、教育ができる。
◇仕事に全力を尽くしてほしい。
「学校はプロの集団であり、組織された集団である。保護者は、派遣教員に期待しており、全力で仕事・研修をすることが信頼を得ることにもつながる。」
◇考えていることはその人の普段の行動に出てくるものである。
◇新しいことに挑戦してほしい。・・・何事にも興味・関心を持って挑戦し、いろいろなことを経験してほしい。それがいずれは自分に返ってくるのである。
◇礼儀正しい人間であってほしい。
◇国際人であってほしい。・・・相手の国の人々を尊敬してほしい。
◇「和」の精神を大切にしてほしい。・・・どんな人とでも話をしていくことで職場も変えることができる。

以上が主な講演内容であったが、お話を伺っていて、これらの点については、決して海外派遣される先生方の心構えではなく、普段私たちが身につけなくてはならない、そしてある意味で私たちが心構えとして持たなくてはならない点であるように感じた。

平成１６年度 派遣教員

平成１６年度　在外教育施設派遣教員候補登録者

所　　属	職 名	氏　名	派　　遣　　先	国　名
豊富町立稚咲内小学校	教 頭	久保　俊博	フランクフルト日本人国際学校	ドイツ
恵庭市立恵み野小学校	教 諭	安栄　智裕	サン・フランシスコ補習授業校	アメリカ
松前町立小島小学校	教 諭	三浦　将大	サンパウロ日本人学校	ブラジル
黒松内町立黒松内中学校	教 諭	山崎　徹也	香港日本人学校香港校中学部	中国
岩見沢市立岩見沢小学校	教 諭	加藤　康徳	ブラッセル日本人学校	ベルギー
旭川市立近文第一小学校	教 諭	櫛部　治彦	ロッテルダム日本人学校	オランダ
和寒町立中和小学校	教 諭	倉　　博之	ジョホール日本人学校	マレーシア
北海道教育大学附属旭川小学校	教 諭	吉中　博道	モスクワ日本人学校	ロシア
紋別市立紋別中学校	教 諭	橋本　正之	マニラ日本人学校	フィリピン
北見市立東相内中学校	教 諭	葉葺　清敏	香港日本人学校大埔校	中国
苫小牧市立緑陵中学校	教 諭	能登　敬久	台北日本人学校	中国
清水町立御影中学校	教 諭	稲葉　珠樹	カイロ日本人学校	エジプト
新得町立新得中学校	教 諭	小室　彰人	広州日本人学校	中国
釧路市立旭小学校	教 諭	原　　佳大	ハノイ日本人学校	ベトナム
札幌市立日新小学校	教 諭	末原　久史	ソウル日本人学校	韓国
札幌市立常磐中学校	教 諭	西山　　昇	シカゴ日本人学校	アメリカ
旭川市立北星中学校	教 諭	伊藤　文江	バルセロナ日本人学校	スペイン
利尻町立仙法志小学校	教 諭	関谷　克志	ボストン補習授業校	アメリカ

派遣される皆様の活躍をご期待申し上げますとともに、

健康で任期を終え帰国されますことをお祈り申し上げます

理事会総会開催される

次期会長に眞木孝輝氏
（札幌市立もみじ台西小学校長）が再選

平成１６年１月９日（金）に北海道国際理解教育研究協議会理事会総会が、ホテル札幌会館において行われた。本会では、毎年全道大会に合わせてと、在外教育施設派遣教員研修会に合わせての２回開催している。今回の理事会総会は、平成１５年度後期の活動報告事項と平成１６年度の運営計画・活動計画についての審議を中心に実施された。

午前１０：００から開催された理事会総会には、全道各地区から理事および研究担当者そして事務局員合わせて３１名の方々の出席があった。総会次第は、下記の通りである。

１，開会の言葉
２，会長挨拶
３，報告事項
（１）理事・事務局・研究担当者自己紹介
※平成１６年度研究推進計画について
（２）平成１５年度後期会務報告
（３）平成１５年度後期の各部業務報告
（４）平成１５年度「派遣教員研修会・帰国教員報告会・激励会」について
（５）平成１５年度決算報告
（６）監査報告
（７）第２４回北海道国際理解教育研究大会上川・旭川大会終了報告および
　　大会集録発行について
（８）第２５回北海道国際理解教育研究大会釧路大会について
（９）その他
４，審議事項
（１）平成１６年度本会の運営計画について
（２）平成１６年度各部の活動計画について
（３）平成１６年度の予算案について
（４）平成１８年度全道大会候補地につい
（５）役員選考
５，新旧役員紹介挨拶

６，連絡・その他
７，閉会の言葉

以上の次第に沿って総会が行われ、報告事項については、すべて承認された。また、審議事項についても提案通り承認され、その計画に沿って平成１６年度の運営が行われることになる。

なお、総会の中で出された話題の中からいくつかを紹介したい。
◇上川・旭川大会の報告が南理事よりあった。その中で、各種大会が１日日程で行われることが多くなった今日において、２日日程で実施したが、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と合わせて１０の授業を公開、しかも時差を設け多くの参加者に参観して頂けるよう工夫をしたこと、そして３３０名ほどの参加者があったことが報告された。
◇今回から導入された授業作りの協力体制は、大きな成果があったことが報告され、来年度以降も「授業協力者」体制をうまく機能させ、「全道」「地区」そして、全道大会開催地区の研究の橋渡しをしていくことが研究部の研究計画の中にも盛り込まれた。
◇経費節約の一環として、「大会研究集録」を冊子にせずに、初めての試みとして、ＣＤ-ROM にしてみた。１枚８０円程度で、コピー時間も約３時間でできたとのことである。
◇平成１６年度釧路大会について準備が着々と進められていること、そして大会の特色として４点を掲げて取り組んでいることなど、釧路地区副会長戸松氏より報告があった。
（くわしくは、「第２５回北海道国際理科教育研究大会釧路大会に向けて」を参照。）
◇今年度も帰国報告集が完成したが、お忙しい中、原稿を執筆頂いた派遣教員の皆さんに感謝申し上げるとともに、作成段階において各地区の理事の皆さんをはじめ多くの方々のご協力のおかげで作成できたことについて、担当の組織部より報告があった。
◇また組織部より、昨年度から本会のホームページを公開したが、１５年の１２月末現在で、１６００件ほどの閲覧があったことが報告された。今後さらに内容を充実したものにしていくために、会員の方々から（特に現在派遣されて活躍されている先生方、帰国された方々など）写真１枚でも良いので、情報の提供をいただきたいとの話があった。
◇平成１８年度の全道大会について眞木会長よりまだ開催地が決定していないが、各地区の実態にあった形での授業公開、しかもその地区のできる範囲で具体的には、小学校と中学校の授業公開だけでも構わないので、大会開催に立候補の声を上げて頂きたいとの話があった。これに対して各理事からもいろいろな面で現状としては、難しい点もあるが、各地区の実態にあった形で、また各地区が毎年行っている地区の実践を基にしたもので大会を開催できないだろうかという意見があった。さらに、各ブロックごとに持ち回りの形での大会開催も考えられないかという意見もあった。
◇会計部並びに事務局長からは、年会費の納入状況が悪く、全道大会の補助金を大会に間に合う形で支出できない現状が報告され、会費の納入アップを図りたいとの話とともに、会員に対しては、是非納入してほしいとのお願いがあった。
最後に、１６年度の役員選考が行われ、その結果、次期会長に眞木孝輝現会長が再任された。

平成１６年度研究推進計画

研究部

Ⅰ　基本方針

児童・生徒が「自分の生き方」に誇りを持ち、自分の未来と地球の未来に対して責任を担うことができる生き方を創造する場としての国際理解教育のあり方を明らかにしていく。

1,　平成１６年度の研究推進　　《　第７次研究　　３年度　》

地球を見つめ、自分を見つめ、
未来を切り拓く児童・生徒の育成

「地球村」に「地球市民」として責任を果たし自信を持っていきていくために自分はなぜ、何のために、どのように生きていくかという未来への方位磁針をもつ子を育てる。

人間中心、地球志向そして未来への学習

人間中心とは→自分自身への認識を深める　　心へと向かう旅
地球志向の学習→グローバルな問題意識　　地球へと向かう旅
未来への学習→問題解決する姿　　夢へと向かう旅

上川・旭川大会の成果「自らに問いかけ，共に生きる道を求めて」

上川・旭川大会は，教室を子供たちの「未来への生き方を創造する場」にしようと「自己の確立」と「共に生きる」ことに注目した研究実践交流が行われた。

○　自分に「問いかける」ことの確かさ
自ら自分と社会とのかかわりを理解し，自分の生き方を創造する。

○実践（行動）していく学びの確かさ
地球市民としての問題解決力の育みには学習活動の構成の中に社会とのつながりを実感させるとともに自分なりに解決の道を体験させることが必要である。

平成１６年度・釧路大会

「子供と地球，そして未来とをつなぐ学習活動の創造」

地球市民として，異文化を尊重しながら，地球上の全ての人々と共に地球の未来のために行動できる子供たちを育てるために，学校教育，地域社会，国際交流での実践のあり方を実証的に探求する。

○「自分」と「地域」,「世界」との出会いを実感させる教材づくり
○他者とかかわりながら，共同目標の実現にむけて，建設的に協力し合う学習活動の構築

国際理解教育で目指す子供の姿

共生の心　異文化を理解する心，他者とコミュニュケートする力，人間として行動する力

2,　研究計画

（1）　今年度の研究推進の重点

国際理解教育の実践は、仲間との共同研究により焦点化され，教室を子供たちの未来を切り拓く場として創造するものへと進化している。本会でも，子供たちと他者そして社会とのかかわりに注目しながら,「地球市民」としての生きかたを求め一人一人の生きる力を育む場としての「国際理解教育の確立」を求めてきた。

そして，我々は「十勝・帯広大会」「上川・旭川大会」を通して，自分の生活をグローバルな視点から見直すことで，子供たち一人一人がよりよい社会を求めて行動を始めること学んできた。

そこで、今年度は第７次研究のまとめの年でもあることから，今までの研究を継続しさらに８次研究へと高めていくために、子供たちと社会，そして，地球を結びつけ，身近な問題を自分ごととして取り組ませる中で，地球市民としての問題解決の姿を追究していくことにする。

特に，国際理解教育を教室の中で実践していくためには，計画→実践→評価→見直しができるものでなければならない。そのため，本年度は以下のような点に重点を絞り込んで研究推進にあたることにする。

①　子供たちと地球を結びつけ，地球市民として問題解決する授業作り
・子供たちがグローバルな視点，そして価値観を育てる教材作り
・子供たちが地球市民としての問題解決をする学習活動

②　国際理解教育における評価活動について
・「国際理解教育でめざす子供の姿」を土台にしながら、絶対評価に対応できる評価規準の作成

③　小学校における「英語活動」について
・国際理解教育における「英語活動」の在り方

※　本会の考える「小学校英語活動」については，このホームページに載せてあります。

３,　組織作り

これからの研究は，多様な実践の中から，交流を繰り返し，よりよいものを求めていく研究推進が求められている。

そのため。全道大会においても，地区の実践発表にとどまることなく，発表の中から，研究の視点の見直しとよりよいものを求めていく討論が生まれなければならない。

そこで，各地区の連携をより図った組織作りを求めていく。

①　全道大会における「授業協力者」
釧路地区の授業作りにできるだけ協力していく。そして，この授業者が「全道」「地区」そして「釧路地区」の研究の橋渡しとする。

②　地区研究との研究交流計画
・　研究部会の実施

夏の学習会	釧路市	７月
全道大会	釧路市	平成１６年１０月１４日・１５日
冬の学習会	札幌市	帰国報告会を兼ねる

4　研究日程

	研　　究　　内　　容	課題別・授業協力者の決定
1月	冬の学習会　１５年度研究のまとめ １６年度研究方針の決定	釧路地区との打ち合せ
2月	釧路地区との研究協議	
3月		授業協力者の選定
4月		課題別分科会の応募 授業協力者の決定
5月		課題別分科会の応募 課題別発表者の決定
6月	石狩地区との研究協議 平成１７年度大会にむけて	
7月	夏の学習会（釧路の予定）	
8月	全国大会(京都大会)８月１日 研究大会にむけての話し合い 次年度石狩地区との交流	
9月	釧路地区との事前打ち合せ	
１０月	全道大会	
１１月	石狩大会にむけて 大会の成果と課題まとめ	
１２月	石狩地区との交流	
1月	冬の学習会１６年度研究のまとめ 第８次研究主題の決定	石狩地区との打ち合せ
2月	石狩地区との研究協議	
3月		課題別分科会の決定

※　分科会に提言については，全道に希望者を募る予定です。

研究についての意見のある方，是非お便りをください。全道の研究推進に参考にさせていただきます。

北海道国際理解教育研究協議会
研究部　研究部長　札幌市立月寒小学校
中　村　　淳
junkthejazz@yahoo.co.jp

第２５回
北海道国際理解教育研究大会
釧路大会に向けて

大会主題
「地球を見つめ、自分を見つめ、
未来を切り拓く児童・生徒の育成」

日　　時　　平成１６年１０月１４日（木）・１５日（金）
会　　場　　１日目　　釧路市生涯学習センター「まなぼっと」
※レセプション　釧路パシフィックホテル
２日目　　釧路市立柏木小学校・釧路市立春採中学校
（公開授業・授業分科会・課題別分科会）
日　　程　　【１０月１４日（木）】

理事会 研究担当者会議	受付	開会式	講演会	分科会 打ち合わせ	移動	レセプション

10:00　12:00　13:00　14:00　15:40　16:30　18:30　20:30

【１０月１５日（金）】

受付	公開授業	授業分科会	昼食 移動	課題別分科会	分散閉会

9:00　9:30　10:30　12:00　13:30　15:30　16:00

釧路大会が目指す特色

釧路地方国際理解教育研究会では、昨年１２月１３日に全道大会実行委員会設立総会を開催し、大会の組織や日程等について確認をし、以下の４点について大会の特色として打ち出している。（以下の特色については、１月９日の理事会総会で戸松理事代理より紹介があった。）

（１）公開授業と合わせて市民講座を公開する。
講師は北海道教育大学教育学部教授　宮崎正勝氏。学校教育と社会教育が融合した事業である。この事業が生まれた背景には、本会と釧路市の生涯学習課の事業が融合した「メッセージ to くしろ」が１０回を越えたこと、本会が国際交流ボランティア団体として登録されたこと、１６年度の世界子供サミットへの協力団体となったことなど日常の連携の成果である。

（２）小学校でめ英語学習活動を全体計画に基づき実践発表
英語を仲立ちとして外国人と自然に接したり、異文化に触れる体験を大切にしながら、幼・小・中・高の連携を意識した「いうでも、どこでも、だれでも、むりなく」できる英語授業とカリキュラムを公開予定。

（３）国際理解教育を柱とした総合的な学習の時間の公開
小中学校の各発達段階で系統的に国際理解教育を計画化している授業を公開予定。

（４）本会平成９年より研究実践しているクロスカリキュラムは現在でも効果的な推進が求められている。また、国際理解に必要な資質を涵養するためには、総合的な学習時間の中だけで行うのではなく、３領域の関連を図ることが効果が大きい。そこで、年間クロスカリキュラム構想を作成して教科・道徳・特活の３領域の関連を図る授業を公開したい。

地フォーラム

１月９日に平成１５年度の「冬の学習会」が実施された。今年は初めて参加した留萌地区を含めて１０地区の研究担当者が一堂に会して旭川大会の成果を交流するとともに平成１６年度の研究について意見交換を行われた。

この会を通して,来年度の研究の方向性がはっきりとするとともに課題を明らかにすることができた。特に，今秋実施される釧路大会にむけて各地区がどのよう課題を持ちながら研究を進めたらよいか具体化できた。

その中でも，その取り組みについて色々と議論のあった「小学校英語活動の在り方」について一定の方向を作りえたことは大変意味のあることだと考える。本会は地球市民を育てる一つの窓口として「英語」を活用したいと考える。そこで,「英語」を異文化として捉え,子供たちが身近な生活から異なる世界や文化，そして人と出会う「手立て」とする。こうすることで，子供たちは，英語ばかりでなく様々な言葉に興味を広げるとともに，言葉は人と人とをつなぐ道具であることを実感し，自ら様々な世界とかかわろうとしていくと考えるのである。

道大会の授業をみても，小学校において英語活動についての取り組みは益々盛んになると考える。しかし，英語活動を国際理解教育として活用していくには，整理されなければならないことが多いという実態も承知している。この点が早急に整備されなければ,「英語=国際理解教育」という構図が出来上がってしまう危険があるともいえる。

「釧路大会」において,本会の「小学校英語活動の在り方」をまとめ，全国に発信して生きたいと考える。各地区の実践と活発な意見交流を求めるところである。(尚，本会のホームページに学習会で提案した資料を掲載してあるので参考にしていただきたい。)

図書紹介

多　文　化　世　界

著者紹介　　青　木　　保　　著

１９３８年　東京生まれ　　岩波書店（岩波新書）

政策研究大学院大学教授

２００１年９月２１日の同時多発テロ以来，グローバル化が多様性と共存する方向に向わずにどちらかというと一様化，画一化に向い，また「文明の衝突」という言葉のように文化の多様性が対立への引き金のように語られていることに危機感を覚えるのは私だけではあるまい。

本来，グローバル化は,「文化の多様性」を守り，より地球市民として個人が外の文化に対して開らいていくことだと考える。

本書は，この点に的確な答えと，これか私たちがめざす社会のあり方を示しているといえる。特に，著者が「多文化世界」は,「文化の多様性」を擁護するとともに，我々一人一人が文化の力を認識しながら魅力的なものへと鍛え，世界に発信し，地球全体の文化を豊かに努力するための「運動」を含んでいると主張している点はこれからの国際理解教育の方向性の一つを示しているともいえる。

同じ著者が２年前に書いた「異文化理解」と読み比べると，文化に対する考え方の変化も良く分かるとともに，これからの社会のあり方に対するヒントも見えてくると考える。

（北海道国際理解教育研究協議会　研究部長　中村　淳）

会費納入のお願い

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。
なお、納入状況等につきましての照会は、会計澤田崇までお願い申し上げます。

〈照会先〉

事務局会計　澤田　崇（札幌市立幌北小学校）
TEL　011-726-2461　　FAX　011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費３０００円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先　　澤田　崇

口座番号０２７５０－４－３４０９

※通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号もお書きいただけると幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会
E - mail　　kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。
各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの情報をお待ちしております。

発行　北海道国際理解教育研究協議会広報部

会　　長　真木　孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
事務局長　池田　幸一（札幌市立新陵東小学校長）
広報部長　古里　和雄（札幌市立手稲西小学校）

「帰国報告集」のご案内

（平成１５年度在外教育施設派遣教員帰国報告書『在外日本人学校での教育の現状と展望』）

北海道国際理解教育研究協議会では、毎年、在外教育施設（日本人学校や補習授業校）で勤務されて帰国された先生方に執筆をお願いして、現地における教育の現状とその展望について報告書を書いて頂いて、「帰国報告集」として冊子にまとめ発行しています。日本人学校の教育に興味関心をお持ちの方、また海外の生活等について情報を知りたい方のちょっとした資料としても役立ちます。
「帰国報告集」希望の方は、本会事務局にお問い合わせ下さい。